

厚生労働省行政事業レビュー講評 議事概要

1. 日 時

令和3年9月7日（火）17:00～17:54

2. 場 所

厚生労働省省議室

3. 出席者

外部有識者：井出委員、伊藤伸委員、伊藤由希子委員、大屋委員、河村委員、栗原委員、増田委員、松原委員、元吉委員、横田委員

厚生労働省：こやり厚生労働大臣政務官、総括審議官（行政改革推進室長）、大臣官房会計課長、会計管理官、大臣官房付、参事官（調査分析・評価担当）

4. 議事内容

（議題）令和3年度行政事業レビュー講評

厚生労働省から令和3年度公開プロセス対象事業の点検結果、令和3年度外部有識者点検対象事業の点検結果について説明。その後、外部有識者から令和3年度行政事業レビューの取組を踏まえた評価すべき点や改善点等について講評。

なお、外部有識者からの主な講評の内容は次のとおり。

- 公開プロセスについては、穏やかに終わったという印象だ。
- 書面審査については、短いコメントになっているが、原局の方と幾度もやりとりを繰り返した、議論の末の結果。
- 公開プロセスについては、障害者の支援、ひとり親家庭の支援、といった事業名だけを見ると必要な事業であると捉えられがちであるが、レビューの意義はどういうことにどれだけの額を使っていて、何が目的でどういう成果が出ているかを、具体的な事実に基づいて議論し、課題を見つけ出すことにある。
- ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業については、ニーズが少ない点、ゴール設定が受講者数になっている点、支援を受けた人がその後どうなっているかについて議論をしたところ。
- 議論を受けて事業内容の変更をしたとのことであるが、更に進んで、来年度にレビューシートを作成する際には、成果の捉え方について、内部で検討して、しっかり

と反映できるようにして欲しい。

- 厚生労働省は困っている人にすぐに届く施策を持っている省だと思うが、困っている人は一つの点だけではなく、複合的な点で困っている。公開プロセス対象となった障害者の就労訓練、アルコール依存症対策、ひとり親のための高卒認定の事業は一部にニーズはあるが、他の制度も組み合わせて使わないと上手くいかない制度でもあったと思う。
- 補正予算の枠内で実施したものが多いため難しいかもしれないが、今後はコロナ対策で大きな予算を投じた事業について、政策の検証が強く求められていると思う。厚労省の施策はコロナ対策だけではないため、過剰に焦点が当たることは望ましくないかもしれないが、国民の関心の強い事業であるので、今後のレビューの中で取り扱っていただきたい。
- 全体としてコロナ対策に取り組んでいるので苦労はあったと思うが、今年度は誠実に対応いただいた。
- 書面審査について、事業目的と合致していないのを指標としているものや、団体の運営経費など本来の事業目的とはいい難いものを無理にアウトカム指標としているものが散見されるので、今後も改善に取り組んでいただきたい。
- コロナ対応については、状況が分からない中で、後で見ると当時やっていたことが正しくなかったということはある。落ち着いたときで結構なので、次にパンデミックが起きたときによりよい対応ができるように、当時の対応が正しかったのかを検証して欲しい。
- 厚労省の公開プロセスに参加するのは5年ぶりであるが、5年前は他省庁に比べると事業の見直しなど、大変前向きに取り組んでいただいた。しかし、今回は5年前と変わったという印象を受けた。
- 当日のコメントシートには、「その他」以外に「事業の課題や問題点」、「評価を選択した理由・根拠」、「改善の手法や事業見直しの方向性の記載欄」がある。コメントが、公開プロセスの結果にどうまとめられているかを見ると、例えば障害者の多様なニーズに対応した委託訓練の実施のコメントには、事業全体の抜本的な改善が3名、事業内容の一部改善が3名いるのに対し、「評価を選択した理由・根拠」の具体的なコメントとしては1つしか書いていない。
- 公開プロセスの意義は、集計をしてとりまとめをして結論を出すことだけにあるのではない。とりまとめコメントについては、各委員の真ん中をとるのは理解できるが、公開の会議であり、委員はそれぞれ違う観点で意見を書いているのだから、とりまとめコメント以外の具体的なコメントについては、取捨選択せずに公表すべきではないか。来年度には、行政事業レビューの本来のあり方に立ち返って対応していただきたい。
- 公開プロセスについては、対象事業数を絞りつつ実施することができ、オンライ

ンも活用しつつ、建設的な議論が出来たのではないか。コメントの公表の仕方については、皆さんからいただいた意見をもとに検討していきたい。

- 障害者の就労の問題、ひとり親家庭の進学の問題、依存症対策については、共通して、一人一人に寄り添ったワンストップ型・プッシュ型の支援が有効であること、関連する制度も含めて全体がわかりやすく、いろいろな制度と連携して全体の成果が上がっていることを適切な指標で把握していくことが必要な事業ではないかと思う。EBPMのロジックモデルも全体としてアップデートしていく必要がある。
- 介護サービスの公表については、より有効なデータベースになるようオープンデータの推進を含めて年度内に改善を進めていただきたい。療養病床の制度についてはそもそもの病床のあり方について議論があることを期待している。
- 書面審査については、金額には反映されなくても執行等の改善、年度内の改善という案件が多々あり、引き続き改善状況のフォローアップをお願いしたい。
- 今年度の書面審査には、感染症対策として補正予算で開始・拡充した事業があり、これらにはすぐに終了したもの、ほとんど執行されずに繰り越されたものが多く見られた。このような事業については、短期間で適切に執行されたのか、繰り越後に執行ニーズがあるのかについて重点的にレビューをしていただきたい。
- 例年と異なりリモート会議で実施したところであるが、もう一歩先の議論ができたらよかった。
- 書面審査については、執行率が低い事業や、アウトカムの設定が適切ではないものがあつた。また、当該事業とよく似た事業があるように思われる事業があつたので、今後は、隣接している事業・関連事業も挙げていただけると判断しやすいと思う。
- 厚労省の施策は国民の生活に密着しているので、出来ていることが当たり前と、評価されていないように思われるが、コロナ対応に追われながらも地道に事業を行っている点を評価したい。
- 一方で、質の向上と効率が厳しく求められるので、個別の施策の評価だけでなく、国民一人一人の単位でどんなサービスが提供されているかを一括で把握できるシステムの構築が必要になってくる。例えば、ひとり親の貧困家庭はどんなサービスが受けられるか。生活保護、住宅補助といった受けられるサービスがバラバラに提供されており、現場の自治体でも把握できていない。こういった問題が質の向上と効率を図る上で問題になっていると思う。単一の事業だけでは効果を計れない。
- コロナ禍での期間限定の事業などの「今年度終了事業」については、「予定通り終了」とだけコメントされているものも多く見られたが、危機的な状況において学んだことはとても貴重だと思われるので、たとえ上手くいなくても、教訓を他事業にも生かすべく「点検結果」には「改善策」を記載して欲しい。
- 関連事業の欄には、現在の作成要領に“類似事業”というはコスト面だけを見た

同様の事業を記すことになっているが、本来もっと多様な事業に関連性があるはず。国民にわかりやすいように、関連事業については同じ目的達成に向けて広めにとり、各事業の連携状況がわかるよう示し、関連図や体系を付記して欲しい。

- “優先度が高い”理由が、必要、重要だから優先度が高いと解釈されているようだが、上位の政策目標との関連で優先順位などの根拠を設定、明記すべき。
- 上記3点については、レビューシート記入要領の修正をお願いしたい。
- 全国へ展開する事業に、浸透度を計る指標が「自治体数」「施設数」の総数のみとなっているものがあるが、5年、10年と継続している事業の浸透度を図るには、自治体格差を是正する質を加味した指標に設定し直す必要がある。
- 今回書面審査の対象となっていた899「地域支援交付金事業」は、事業を複合した高額予算で、かつ、自治体、国民すべての協力が必要な事業であり、2025年を目指した緊急度もある事業である。公開レビュー案件を抽出する目的を、予算の削減、効率化だけでなく、多様な主体の協力により関連性の理解を得て、効率的効果的な運営方法について皆で知恵を絞り出すという機会にもしていくなれば、これこそ公開プロセスの対象とすべきだったのではないか。
- 有識者が改善提案を記しても、「反映結果」欄には何らコメントなく「現状通り遂行」とだけ記されているものがある。反映可否は行政判断によるが、不採択の場合は理由を明記すべき。記入要領にもその旨記されている。
- 「行政事業レビュー推進チーム」の所見が一律の簡素な記載内容になっている。多忙な中で多数の案件に対応するためかもしれないが、「より効率的に」「より適切に」とだけ記して通じるならば、レビューする必要はない。多様な主体でレビューするのは、何を持って効率とするか、適切とするかの判断基準がそれぞれ異なるため、外部有識者や行政事業レビュー推進チームがあるのだと思う。レビューチーム自身が自分たちのレビューのあり方をレビューする必要もあるのではないか。
- 書面審査対象に小学校休業に伴う給付金事業や妊産婦のオンライン講座など、コロナ禍の事業があったが、今後のパンデミック時の対応に活かせると思うので、事後検証いただきたい。
- 長らくレビューを続けている事業やモデル事業から始まった事業においては、事業概要や事業目的が変わっているにもかかわらず更新されていないものが見受けられたので、担当が変わる度に見直して欲しい。
- 他省で企画競争の審査に携わった際に、ロジックモデルに沿って報告書を提出するという提案をしてきた事業者がいたので、アウトプット、アウトカム、ロジックモデルの考え方を事業者に浸透させると良いのではないか。
- 各委員のコメントについては、委員自身が問題ないというのであれば公表して良いと思う。